

あぷろうち

～ approach ～



日本労働組合総連合会
群馬県連合会（連合群馬）

発行人 金子 裕昭
編集人 新井 智

〒379-2166

群馬県前橋市野中町361番地2

（群馬県労働福祉センター2F）

TEL 027-263-0555

FAX 027-261-0549

Eメール info@gunma.jtuc-rengo.jp

URL http://www.rengo-gunma.gr.jp/

2015年10月号

No.241

すべての人にディーセントワークを 「Decent Work For All」



10月9日、高崎ハローフォーラムにおいてディーセントワーク世界行動デー群馬県集会を産別、地協、議員懇など約260名が参加し開催しました。

連合群馬で開催した今集会では、冒頭、櫻井副会長より主催者を代表しての挨拶後、働きがいのある人間らしい仕事の実現と政府が押し進めようとしている労働時間規制および解雇規制の緩和（いわゆる労働者保護

ルールの改悪阻止）に向けて、産別を代表し電機連合群馬地協・ルネサス・グループ労組連合会高崎地区支部の千坂副支部長、また議員懇を代表し民主党宮崎衆議院議員より力強いアピールを行い我々の主張を訴え

るとともに、集会の最後では連合群馬として「すべての人が、公正で公平な権利が保障され安心して暮らせる社会の実現」に向けて一致団結し取り組むことを全体で確認しました。

集会終了後は、日本でのディーセントワークの認知度向上および世論喚起を目的に高崎駅周辺において、参加者全体で

シュプレヒコールを上げながらのアピールウォークを行い、道行く多くの勤労者や生活者に向け訴えかけました。

また、集会開催に先立ち高崎駅周辺にて、ディーセントワークについてのチラシを配布するなど周知活動も行いました。



ディーセントワーク世界行動デーとは、

連合を含む世界162カ国・地域の1億7,600万人の労働者が結集するITUC（国際労働組合総連合）が「公正なグローバル化を通じた、持続可能な社会」をめざして、毎年10月7日を「ディーセントワーク世界行動デー」と定め世界中で一斉行動を呼びかけている



青年委員会 政治意識向上の取り組み—議会傍聴で、行政チェック役の重要性認識



9月17日、青年委員会は、県庁の議会庁舎で連合群馬議員懇談会の県議会議員と意見交換を行いました。

今回の取り組みは、青年委員会として次期の参議院選挙に向けて、特に投票率が低い若者が政治活動への理解を深め、積極的な活動に繋げるためのキッカケ作りとして実施しました。

当日は、事前学習として、政策担当副事務局長より連合の重点政策や連合群馬の政策・制度要求と提言について説明を受けた後、県議会の傍聴ならびに県議会議員との意見交換を行いました。

若年層の投票率が上がらない要因として「若い人は、自分が投票したことで何がかわるのか分からない。だから投票に行こうと思わない」「政治や選挙に興味を持ってないから参加しない」など、若者が政治に参加しない理由が上げられるが、政権交代があった2009年の衆議院選挙では、投票率が大きく上昇したことなどから「何かが変わると期待し、関心を持つことで投票に行くようになる」ことを確認しました。

青年委員会として「選挙に行くことが当たり前と思えるような雰囲気をつくる」ことや「政治を身近に感じられるように、普段から生活のどこに政治が影響しているか組合員に説明していくことで関心や興味を

持ってもらふ」ことの大切さを改めて理解しました。また、若者が投票を行いやすいように、ネットでの投票や選挙区内のどの投票所でも投票できる制度、期日前投票所の拡充を議員に要望しました。

県議会の傍聴では、「県政運営について、高齢化・人口減少を踏まえたインフラの整備や交通弱者に対応した公共交通の整備」など、連合の政策・制度要求と提言と一致する項目も含まれており、私たちの要求が県政に反映されるためのプロセスを実際に見ることができました。

後藤県議の一般質問「持続可能な県政運営と高崎競馬場跡地のコンベンション施設整備計画について」では、コンベンション施設の建設については、「建設コストが上昇し続ける時期になぜ建設するのか」と質問し、「県庁舎を除くと県内最大の建物を作ろうとしている。県民の声を広く集め、よく考えて進めて欲しい」と要望しました。

知事からは、修正した新しい計画に対して広く県民に説明し声を聞くとの回答は得られず、新計画に従って建設していくと回答、その後、県議会議員との意見交換の際に、今回の質疑で何がかわるかを後藤県議に投げかけたところ「何もしなければ今頃は大雑把な計画で着工していた。質問を続けたことで、不十分だが現実的な計画に修正された」とこれまでの取り組みの成果を知ることができました。

私たちの代表の活動で「不十分な計画が整備される」といった行政のチェック役としての議員の仕事内容があることを知り、代表を政治の場へ送ることの大切さを改めて感じました。

衆議院議員 宮崎タケシのマジメひとすじ No.5

245日間という戦後最長の通常国会が終わりました。憲法違反の疑いがある安全保障法制の審議で、政府・与党が国民多数の反対を押し切って強行採決したことから、騒然とした空気の中での国会閉幕となりました。

衆議院では7月に強行採決が行われ、私自身も委員長席に詰め寄って猛抗議。体を張って採決阻止に全力を尽くしましたが、数で勝る与党に力で押し切られてしまいました。

9月の参議院における採決でも、法案成立を焦る政府・与党は、なんと地方公聴会と同日の夜に強行採決しようとする、国会の慣例を無視する暴挙に出ました。

そこで私たち野党議員は、委員長に抗議するため参議院の理事室前に詰めかけ廊下を埋め尽くしました。スクラムを組んで突進してくる屈強な与党議員の猛攻に耐え、抗議を続けました。

本来、後方にいる予定だった女性議員の方々が率先して先頭に立ってしまったのは誤算でしたが、その勢いに委員長が気圧され、その日の委員会開催は阻止されまし

た。以降三日三晩にわたりほぼ徹夜で抵抗を続けましたが、ついに19日、土曜日の午前2時過ぎという異例の時間に、安保関連法の成立を許してしまいました。

安保法制をめぐる70年安保以降で最大規模のデモが国会を取り巻きました。国民世論からこれほどの後押しを受けながら、期待に応えられなかったのは本当に残念です。しかし、デモにはこれまで政治に無関心だった若者や主婦が多く参加し、民主主義の新たな息吹を感じたのも事実です。

とはいえ、法案審議の主戦場は国会であり、国会では「議席こそ力」です。まず野党勢力を結集し、来年の参院選で勝利し、自民党と互角に戦い議席を確保することこそが何より大切だと痛感しています。



若者の関心は?! 政治や選挙に 有権者として 労働組合として どう向き合うか

選挙年齢を現在の20歳以上から18歳以上に引き下げる改正公職選挙法が成立し、来夏から新たに18歳、19歳が選挙権を得ることになりました。

若者の関心や情報源についての実態、政治や選挙での投票に対する意識など、連合本部が全国の15歳から23歳の男女を対象にインターネット調査によるリサーチを行いました。

② 若者の選挙での投票に対する意識

選挙がどのように変わったら「投票しよう」と思う気持ちが強くなるか複数回答で聞いたところ「インターネットで投票ができた」が最も多く54.6%。「もっと候補者の比較のしやすさ」26.7%、「もっと政治について知れる・学べる機会があれば」25.7%で4人に1人が挙げています。

投票しやすさだけでなく、若者が政治について知る・学ぶ機会を作ることも大切ですね



第18回統一地方選総括にも掲げた、「新たな選挙権を有する年齢になる者を含めた政治意識向上のための取り組み」。若者のライフスタイルにあった形で労働組合の存在や活動を知ってもらう、労働組合が身近な存在であることを広くアピールし、家庭・職場、組織としてそれぞれの立場で投票率の向上に向け、取り組みましょう！

◆調査タイトル：若者の関心と政治や選挙に対する意識に関する調査 ◆調査対象：ネットエイジアリサーチのモニター会員を母集団とする15歳～23歳の男女 ◆調査期間：2015年7月4日～7月12日 ◆調査方法：インターネット調査 ◆調査地域：全国 ◆有効回答数：1,000サンプル（各性年代がおおむね均等になるように抽出）
※月刊連合、WEB版の一部引用しています

① 若者のニュースの情報源は

ふだん、何からニュースなどの世の中の動きを知っているか複数回答で聞いたところ「テレビ」が最も多く82.6%。次いで「ニュースサイト」50.7%、「SNS」49.2%。「SNS」は「親との会話」28.7%、「友人知人との会話」27.3%より多い結果となりました。

若者の新聞離れ？ネットやSNSが多い傾向！



③ 日常生活と政治の関わりについての若者の意識

労働関連や生活関連の項目についてどのように影響があるか、各単一回答で聞いたところ、特に「給料・賃金」は半数近くの47.3%が「非常に影響があると感じる」と回答。

「モノやサービスの値段（物価）」についても44.8%が、政治の影響を受けていると多くの若者が感じている様子が伺えました。



「お金」や「仕事」に高い関心を持つ18歳前後の若者たちは、政治の影響が大きいものとして、物価や治安だけでなく、就業のしやすさ、働きやすさ、賃金を挙げた。労働教育のニーズも高いといえそう。

「北方領土は日本の地」平和行動in根室に参加

9月11日～14日にかけて開催された、「平和行動in根室」に連合群馬から派遣団の7名が参加しました。

12日に開催された北方四島学習会では、太平洋戦争末期から終戦直後の色丹島を舞台に、ソ連の占領に伴い激変した島民の暮らしを“とある家族の視点”で描かれた映画「ジョバンニの島」を鑑賞するとともに、「次代へ受け継ぐ平和への歩み」と題し、島民の方々との意見交換を行い、次世代への運動継承に向け取り組みました。

映画のモデルとなった得能（とくのう）さんから、「これまで、歌やカルタなどを使い、北方領土問題をPRしてきたが、この映画ができたことでより多くの国民に北方領土とその問題を知ってもらうきっかけとなった」と、モスクワやサハリン、色丹島など、海外でも既に鑑賞されているとのこと。

翌、13日は「2015平和ノサップ集会」に参加し

ました。雨の降る中での開催となり、岬から北方四島を確認することはできませんでしたが、全国から1,200人が集まり、神津事務局長による主催者挨拶をはじめ、地元北海道選出の鈴木貴子民主党衆議院議員、児玉北連協（北方領土返還要求運動連絡協議会）事務局長など、多くの来賓の方々から挨拶をいただくとともに、集会アピールを採択し、北方四島の早期返還に向け、参加者全体で共有しました。

連合は、今後も北方四島返還の早期実現に向けて最後まで運動に取り組んでいきます。



北方四島早期返還を求め、集会に参加

青年委員会 イクメン養成講座

青年委員会は、9月26日、前橋市総合福祉会館でイクメン養成講座を開催し、若手組員26名が参加しました。

今回の講座は、男性の「家事・育児」への参加促進につなげるきっかけづくりとして、意見交換と家事体験を実施しました。

意見交換では、男性と女性それぞれの家事や育児に対する考え方について話し合いを行い、認識の違いについて共有を行いました。

男性の「家事は専業主婦がこなす」とのイメージを持つ方がいる一方で、「共働きでお互い協力して家事を行う」との実体験が知られるなど貴重な意見交換となりました。



薄焼き卵を載せて完成…

続く、家事の体験では、家事の中でも毎日行う重要な役割である調理を選び、今回は家に帰っても作れる簡単な料理としてオムライスをつくりました。

包丁を持つのがはじめてという参加者もいて、苦戦しながらの調理となりましたが、「このくらいの手間なら家でも作ってみよう」との声も上がりました。

今回の講座では、男性・女性ともに、家事労働を『手伝う』ではなく、『いっしょにやる』との認識が重要であるとのまとめを行い、参加者で共有しました。

女性委員会☆ハンドメイドとアンチエイジング

女性委員会は、9月12日、生涯学習センターにおいて、「はたらく女性の自分磨きセミナー」を開催し、産別・地協から31名が参加しました。

今回のハンドメイド&アンチエイジング講演は初めての開催となりましたが、悪戦苦闘する中、参加者同士の交流もはかり楽しいひと時を過ごしました。

ハンドメイド講座では、各グループに分かれ各自作りたいチャーム（飾りとなるメインの品）のキットを選び、オリジナルの構図を考えながら、楽しく製作していました。

今流行っているUVレジンを使って、皆さん上手にチャームを作り上げました。

後半は、「アンチエイジング・若々しく健康でいられるために」と題した講演を行い、健康的に過ごせる運動方法や食生活におけるカロリー摂取の仕方などについて、楽しく学びました。



食品のカロリーを知って、
食生活を振り返りました



ピンセットを使って
絵やビーズを配置

下回ったら法律違反！

法定地域別最低賃金〔群馬県〕
2015年10月8日から

時間額 **737円**

深夜勤務は時給922円！

高橋正好アドバイザー 勇退

連合群馬発足時から執行委員として約10年、また2006年から、未組織労働者支援、およびユニオン加盟後のフォロー役として活躍いただいた高橋さんが9月で退任いたしました。

実にこの10年間で労働組合結成で29単組、791名の仲間が増えました。最後にコラムで思いを語っていただきました。本当に長い間、ありがとうございました。



～安心して働きたい・暮らしたい国～
【組織化に向けた10年の思い】

私が企業定年を迎える時期に単組や産別での活動経験を活かして、組織アドバイザーとしての活動に取り組みで欲しいとの声掛けをいただきました。

いまでものお世話になった恩返しのためにも引き受けてから10年4か月、この9月で退任をいたしました。

アドバイザーとして労働組合作りに関わり、たくさんの組合のない組織で働く方と話をしてきました。ワンマン経営、一方的な労働条件の切り下げ、業績不振による解雇など様々です。多くの場合は労働組合を結成して会社側と話し合い、解決に導くことを説明し仲間とともに労働組合結成に結び付けてきました。

なかでも印象深いのは「M労組」の立ち上げです。

県内の企業では比較的規模の大きい、中小企業の従業員からの労働相談でした。

労働組合の結成に向けた勉強会を始め、足掛け4年に及ぶ長い期間の中で、組合結成に賛同する100名の仲間を募ることを目標に活動を進め、結成大会を成功させました。その後今日まで、組合員拡大に取り組みと同時に賃金引上げや一時金をはじめ労働条件の向上に懸命に取り組むを進めているのが思い出に残る一コマです。

労働組合のない職場で働く、労働組合の必要性についての理解を広げ、その中で実際に労働組合をつくろうと決意する人を探し、彼らの背中を後押しする、私たちが産別役員の大きな役割を占めていることを改めて実感してきました。

「1000万連合」に向け未加盟労組・ターゲット企業の訪問には、産別や事業団体と連携した中身の濃い活動が必要と考えます。会議や大会の中で方針として掲げ、いかに魂を入れるかに尽きると思います。

最後にアドバイザー在任中、連合群馬役職員をはじめ、各地協・産別の皆様に大変お世話になったことに感謝するとともに、今後の連合群馬・各組織の一層の発展を祈念します。

(高橋)